

院内がん登録

がんセンター 横井 美由紀

2022年分の「院内がん登録」の集計結果をご報告いたします。

院内がん登録は、病院で診断、治療された全ての患者さんのがんについての情報を診療科問わず病院全体で集め、その病院のがん診療がどのように行われているかを明らかにする調査です。がん検診で見つかった患者さんが多いのか、他の病気でかかっているうちに発見された患者さんが多いのかなど受診までの経過の違いやがんの種類別の違い、あるいは手術の数が多いか少ないかなど病院のがん診療の特徴を把握するために定期的に行われています。

登録対象 入院外来を問わず、下記の期間中、新たに受診・診断・治療の対象となった腫瘍

期 間 2022年1月～12月

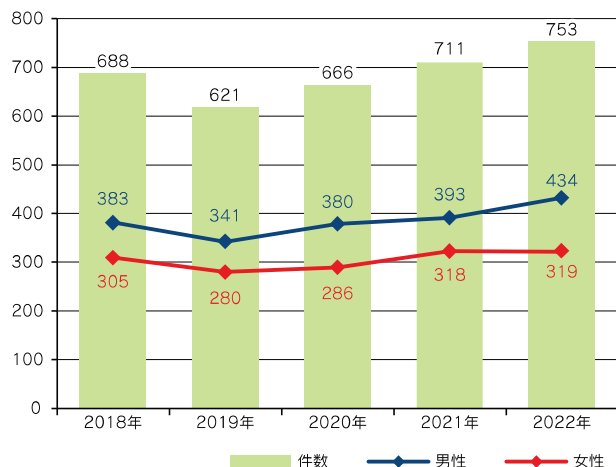
件 数 全登録数766件のうち、症例区分80その他を除く ※集計対象件数：753件

※国立がん研究センターがん対策情報センターが実施する全国集計において症例区分80その他を除外したデータを集計対象と定義しています。症例区分80には、他施設で診断され、治療目的に紹介されたが、治療が行われず、他施設へ紹介となるようなケースの症例が分類されます。

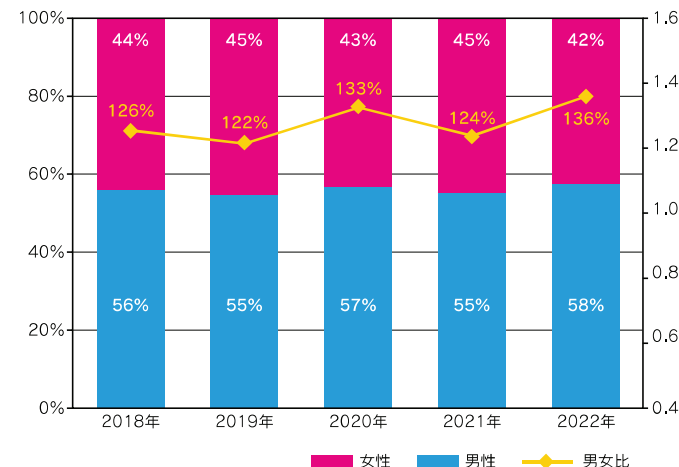
◆がん登録件数は医療機関で診断、確認された症例数であり、がん発生数罹患数とは異なります。同一症例が他の医療機関でも重複登録される場合があることから、場合によって両者に大きな差が生じることがあります。

◆個人情報につきましては、法令および厚生労働省のガイドラインに基づき適正に取扱い、保護、管理を行っています。

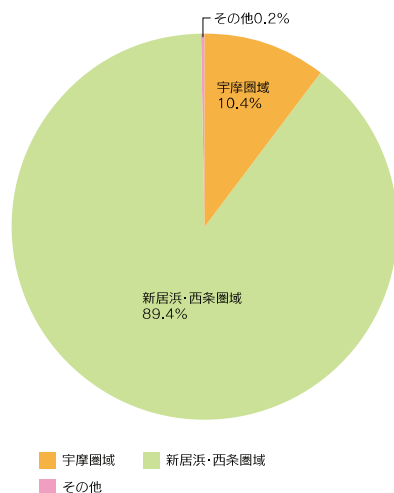
●登録数の年次推移



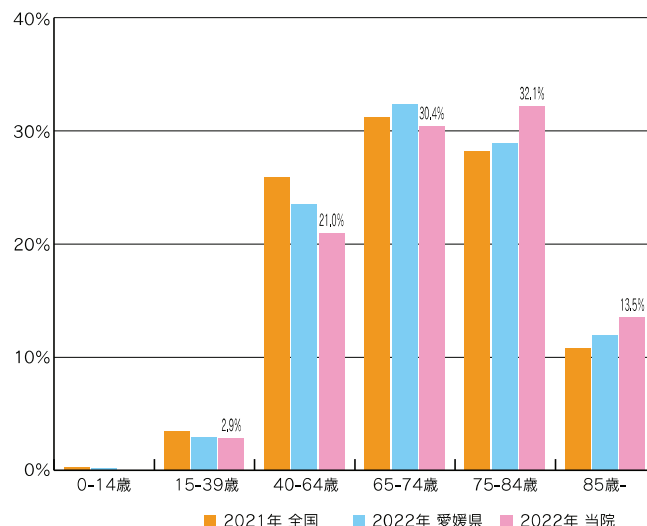
●男女比の年次推移



●診断時住所別の登録割合



●年齢階級別登録割合 愛媛県全体・全国値との比較



● 部位別登録数 (10未満は幅を持たせた表記としています)

2022年症例の部位別登録数上位5部位は、大腸(116)、前立腺(81)、胃(77)、乳房(70)、肺(55)です。

診断年	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
口腔・咽頭	(7～9)	-	(7～9)	-	(7～9)	-	(7～9)	-	13	1.7%
食道	17	2.5%	(7～9)	-	14	2.1%	19	2.7%	15	2.0%
胃	66	9.6%	82	13.2%	81	12.2%	94	13.2%	77	10.2%
結腸	68	9.9%	61	9.8%	78	11.7%	59	8.3%	65	8.6%
直腸	36	5.2%	41	6.6%	40	6.0%	53	7.5%	51	6.8%
肝臓	24	3.5%	21	3.4%	27	4.1%	24	3.4%	27	3.6%
胆嚢・胆管	14	2.0%	10	1.6%	(4～6)	-	(7～9)	-	15	2.0%
膵臓	26	3.8%	21	3.4%	36	5.4%	23	3.2%	34	4.5%
喉頭	(4～6)	-	(1～3)	-	(4～6)	-	(1～3)	-	(1～3)	-
肺	29	4.2%	22	3.5%	28	4.2%	38	5.3%	55	7.3%
骨・軟部	0	-	(1～3)	-	0	-	(1～3)	-	0	-
皮膚(黒色腫を含む)	23	3.3%	20	3.2%	47	7.1%	38	5.3%	49	6.5%
乳房	78	11.3%	81	13.0%	68	10.2%	98	13.8%	70	9.3%
子宮頸部	30	4.4%	16	2.6%	20	3.0%	21	3.0%	27	3.6%
子宮体部	(4～6)	-	(7～9)	-	11	1.7%	11	1.5%	12	1.6%
子宮	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
卵巣	13	1.9%	(1～3)	-	(1～3)	-	(7～9)	-	(4～6)	-
前立腺	68	9.9%	93	15.0%	83	12.5%	90	12.7%	81	10.8%
膀胱	43	6.3%	33	5.3%	39	5.9%	36	5.1%	46	6.1%
腎・他の尿路	40	5.8%	25	4.0%	20	3.0%	26	3.7%	27	3.6%
脳・中枢神経系	17	2.5%	(4～6)	-	(4～6)	-	(4～6)	-	(4～6)	-
甲状腺	21	3.1%	(4～6)	-	(1～3)	-	(4～6)	-	20	2.7%
悪性リンパ腫	14	2.0%	20	3.2%	25	3.8%	21	3.0%	25	3.3%
多発性骨髄腫	(4～6)	-	(1～3)	-	(1～3)	-	(1～3)	-	(4～6)	-
白血病	(7～9)	-	(7～9)	-	(1～3)	-	(4～6)	-	(4～6)	-
他の造血器腫瘍	10	1.5%	(1～3)	-	(1～3)	-	(1～3)	-	(4～6)	-
その他	21	3.1%	21	3.4%	15	2.3%	13	1.8%	16	2.1%
合計	688		621		666		711		753	

住友別子病院は新居浜・西条地区の中核病院としての役割を担っており、2005年に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けてからは、がん登録を開始するとともにがん診療体制を整備してきました。

2018年には新病院への建て替えを機に、PET-CT新規導入、放射線治療機器の高精度上位機種への更新、IVR-CT導入、手術支援ロボットの導入等の設備更新を行い、高度ながん診療を提供できるようにいたしました。また、薬物療法を行う外来化学療法室の充実や治療面の整備、緩和ケア病床の新設や在宅緩和診療における地域連携の構築などにも取り組み、がん診療全般にわたる多様なニーズにこたえられるように取り組んでまいりました。

診療科の縮小で一時低下したがん登録件数でしたが、以後は年々上昇し、766件と過去5年間で最大となりました。部位別では、大腸が昨年同様最も多く登録され、前立腺、胃と続きました。乳房は診療体制の変更により登録数が減少しました。

診断のみの症例、自院で診断・治療開始症例とも増加しており、常勤の有無にかかわらず、多くのがんを適切に診断できております。しかしながら、自施設責任症例割合は愛媛県平均より低く、多くのがん種で責任を持った治療をするためには、呼吸器・血液等常勤医不在の診療科の拡充が必要です。

登録時の住所では新居浜・西条圏域が89.4%、宇摩圏域が10.4%となっており、昨年同様、当院は新居浜・西条地域および宇摩地区の一部を担当医療圏としております。

年齢階級別の割合では、例年通り、全国平均や愛媛県平均と比べ、70歳以上の患者が占める割合が高くなっています。地域の高齢化が主因ですので、今後も高齢者のがん患者は増加していくことが予測されます。

来院経路としては、愛媛県・全国平均と比べ、自主受診割合が2倍以上高値でした。有症状時や精査希望時など、自主的に当院を受診されることが多く、診断においては地域住民からの信頼を得ているものと思います。

コロナ禍で検診を控えていた層も徐々に検診を受診するようになり、検診件数もコロナ禍前に回復しつつあります。コロナ禍ががん診療に与えた影響が、これからのがん登録で徐々に明らかになっていくものと思います。今後再びパンデミックが起こった際に、がん治療が後手を踏まないよう検証が必要だと思います。

(診療部長 松 原 稔)